

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信

迎春

～初日～ 輝く未来へ

<撮影:北杜市須玉町>



『今、思うと』



社会福祉法人信和会 評議員

有限会社 北杜開発

代表取締役 貝瀬 勝政

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

私は、平成25年度から社会福祉法人信和会の評議員を務めさせていただいております。評議員として、役員会に参加させていただく中で思い出することがあります。

それは、今から38年前の夏のころ、私が韮崎東中学校サッカー部のキャプテンを務めていた時の話です。当時、東中学校の部活動の中でもサッカー部の存在感は群を抜いておりました。サッカー部は一時、大人気となったキャプテン翼の原作者が見学に来られるほど全国でも有数の強豪校でした。成績は当然のように全大会で優勝を飾り、県外の高校からもオファーが集まるほどでした。他の部活はどうかというと、陸上部では人手が足りず、サッカー部員が助っ人として陸上の大会に参加することがしばしばありました。

その中でも、中学校の運動部員が目標とする大会“中学校総合体育大会”に毎年のごとく陸上部の助っ人として参加するサッカー部員三人がおりました！1人目は、私と同じ藤井町出身で長距離の上野君。2人目は、中距離800m担当の私でした。そして3人目は、短距離担当の“K君”です。私たちとは違いK君は中学校に電車で穴山地区から通う同級生でありました。早朝の練習、夕方遅くまでの練習と何かと時間も制限もかかり大変なところ部活動に励んでいました。私を含む3人は、サッカーだけでなく陸上でも県の代表になるほどの活躍を収めました。本来であればサッカー部はオフシーズンを迎えているところ私たちは陸上のスキルを磨くため、陸上部の顧問が主催する合宿に参加しました。初めは陸上の専門的知識がなくルールもわからなかった私たちが、切磋琢磨しながら辛く苦しい練習を乗り越え、ついには当時の横浜国立競技場（現・日産スタジアム）までたどり着いたのです。

大会当日の前夜は今でもはっきり思い出されます。着慣れない陸上のユニフォームを鏡の前で合わせたり、枕元に畳んだりを何度となく繰り返しました。私たちはサッカー部員ですから足は太く短く、陸上選手のように細く長くないため、山梨県代表のワイン色のユニフォームが似合っていたのかどうか皆様のご想像にお任せします。食事を摂り明日に備えて早めに就寝しようと思しますが、緊張のあまりなかなか寝付くことができず、三人で明け方まで語り合ったことを今でも覚えています。

そして当日の朝、食事もろくに摂れず緊張気味の私に声をかけてくれたのは穴山町出身のK君でありました。彼は私に、「何とかやるよ」と一言。その言葉が私の心を和ませてくれ、顧問の先生や他の仲間たちの言葉以上に、K君のその一言が私の力になりました。結果としては、決勝には進めなかったものの山梨県代表として爪痕を残すことができました。

もう、お気づきだと思いますが、穴山町出身の“K君”とは現在、信和会理事長である“栗原 信”君のことで。38年前、見えない敵に小さなハートながらも戦っていたのでしょう。

現在もコロナ禍の中、見えない敵と戦っています。今年も何が起きるか不安を抱えながらのスタートとなりますが、栗原理事長を中心にチーム信和会は一人でも多くの人の笑顔を作り出せるよう、私も微力ながら協力していきたいと思っております。

コロナ禍で私の心に響いた一つの言葉があります。それは『若草物語』で知られるアメリカの小説家ルイーザ・メイ・オルコットの言葉です。

< 雲の向こうはいつも青空 >

ルイーザ・メイ・オルコット

意味としては、どんよりと暗雲が立ち込めていてもその先には必ず光に満ちた大空が広がっている。どんな時も希望が失われることはないということを表しています。

このコロナ禍がいつか終息を迎え、以前のような生活を送ることができる世の中になることを信じ、共に頑張っていきましょう。

これからも、信和会の応援団の一人として頑張っていきます。信和会の役職員皆様にとって良き一年でありますよう祈念しております。



本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
Tel:0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



理事会・評議員会報告

- 開催日 : 令和2年12月5日(土)
開催場所 : 穴山の杜 会議室
審議事項 : 第1号議案 各事業所規程関連の変更
第2号議案 定款変更及び基本財産の変更
第3号議案 補正予算について



令和2年度第2回の理事会・評議員会は、コロナ禍の中感染予防のため、検温・手指及び会場消毒・会議場所の換気・出席者の座席間隔1m以上確保・短時間での開催など十分配慮して開催いたしました。1年ぶりの対面会議となりましたが、役員様ほぼ全員の参加となり元気な様子が見られてうれしく感じられました。

審議事項について、第1号議案では、県の監査での要望事項を盛り込んだ改定や規則、規定の変更を提案いたしました。第2号議案では、穴山の杜ショートステイが貸借している4筆の土地を購入し、1筆にまとめたことによる定款及び基本財産の変更を提案いたしました。第3号議案では、コロナ感染症予防対策、ICT関連の助成金などの公募が続いており、中間報告と年度末にまとめて補正予算の承認を申請することを提案いたしました。すべての議案についてご承認していただきました。

さらに今回は、当法人の栗原信雄会長が、米寿の誕生日に瑞宝双光章を叙勲いたしました。会議後に、皆様にご報告し、前理事長である古井理事よりご祝辞を賜るなどお祝いしていただきました。

瑞宝双光章 叙勲

社会福祉法人信和会 会長 栗原 信雄

父である長雄氏より郵便局を引き継いでから、穴山特定郵便局の局長として35年間地域の郵政事業に貢献された功績が認められました。

退職されてからは、障害者支援施設や老人介護施設等を開設し、地域の福祉サービスの向上に尽力されています。

米寿の年にも重なり、二重のお祝いとなりました。「地域の方、知人友人のお陰と心から感謝しております。これからも健康に留意して頑張ります。」と語られました。



研修会報告

★主任研修会

2020年感染症対策に追われ、各事業所では様々な取り組みが行われました。

法人全体としての指針や事業所間での情報交換を行い2021年に向けての準備を進める事となりました。社会福祉という業種はステイホームやテレワークなどがしづらく、導入するICT機器を活用して職員への負担軽減と支援・介護の質の向上や職場環境改善に取り組む事に致しました。

★三年目・四年目フォローアップ研修会

2017年と2018年4月に採用致しました職員に対するフォローアップ研修会を実施致しました。三・四年目を迎え仕事の大半が理解でき業務に従事していますが、後輩への指導力や各自の更なるスキルアップも望まれる時期です。感染症に対する新しい生活様式に対応するための知識習得も取り入れました。



穴山の里

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164
Tel.0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



明けましておめでとうございます

施設長 奥水 理一

新型コロナウイルスの流行で、その対応に明け暮れた令和2年でした。事業計画において当初計画されていた各種行事等は、感染拡大防止の為、そのほとんどを中止せざるを得ませんでした。感染予防のため、利用者の皆さんが楽しみにしていた“一時帰省”や“面会”も出来ないため、ご家族にも会えず寂しい想いをしています。そんな皆さんのストレス解消のため、少人数での果物狩りやバスハイク・小運動会等で楽しみ、テイクアウトのピザやハンバーガー・お楽しみ弁当等の美味しい食事を提供する等、出来る限りの対応をさせていただいております。更に、職員の感染症に対する危機意識の徹底も図っており、ウイルスを施設内に持ち込まないことを念頭に、毎日の清掃・消毒等に励んでおります。

一方、万一の発生時の対応策として、本館裏の“つつじ寮”を隔離棟として機能できるよう、看護師を中心に、浴槽・洗濯室・食堂の整備等様々なハード面の対応策を講じました。また、感染症対策として、施設内の空調を集中エアコンから独立した個別空調へと更改する設備工事を実施し、大型空気清浄機も設置しました。更に、飛沫感染予防のため、食堂のパーテーションをアクリルタイプに交換しました。

なお、施設内の生活が長くなることから、利用者の皆さんに快適に過ごしていただくため、食堂のイスをクッションの厚いタイプに入れ替えをし、好評です。

一日も早く新型コロナウイルスの感染が収まり、平常の生活に戻れることを心から願っております。これからも引き続き、感染症対策に努めて参ります。



大豆の収穫体験〔小学校との交流会〕

11月4日、韮崎小学校3年生の児童63名と先生4名が来園され「大豆の収穫体験」を実施しました。今年で4回目となります。収穫体験は、小学校の“食育の体験学習”の一環であり、実際に大豆を収穫する中で、作業の進め方や食べ物のお大切等を学んで頂く機会です。大豆の枝から実を取り出してから、写真の“選穀機”という大豆の実と、殻やゴミをきれいに選別できる機械を操作して、楽しく収穫を体験していただきました。



穴山の里文化祭



10月27日「穴山の里文化祭」を実施しました。今年は新型コロナウイルスの感染予防も視野に入れ、施設内のみでの実施となりました。そのため、発表部門は行わず、作品の展示のみとなりましたが、各活動班やクラブ活動等で1年をかけて作り上げた力作に、あちらこちらで驚きの声が上がっていました。お疲れさまでした。施設長賞は、農業班でした♥

穴山町文化祭

11月1日「穴山町文化祭」を見学しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、全員での見学はできませんでしたが、芸術の秋に触れることができ、皆さん大満足の様子でした。また、1年の集大成となる作品を出展し、地域の方々に見ていただく良い機会をいただきました。

クリスマス会

12月19日「クリスマス会」を行いました。密集に配慮し、各活動班に分かれ、レクリエーションやクリスマスソングの合唱・映画鑑賞などを楽しみ、美味しい食事も頂きました。利用者の皆さんの笑顔が印象的でした。

穴山の杜

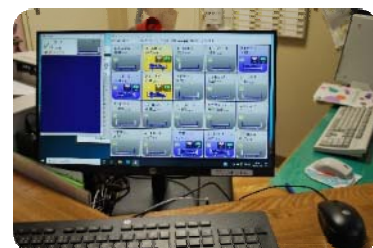
特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



全てに満たされた時代にもかかわらず、精神的に満たされず心に悩みを持たれている方々の多いことに気づかされます。コロナ禍の鬱積とした時代背景もあるのですが、現代病と言われている種々のストレス等により、鬱になったり家庭内に引きこもりになったり、社会に馴染めなくなっています。穴山の杜では、昨年の11月より職員のメンタル面のケアを担当するカウンセラーを外部委託いたしました。日常の介護ケアの中で、あるいは個々の日常生活で悩んだりしても、誰にも相談できずに苦しんでいる方々に、少しでも役に立てればと思います。電話でもメールでも24時間対応、秘密厳守で接してくれますので安心して気軽に相談できる体制になりました

入居者の見守り体制の充実

この度、利用者の夜間の事故防止と職員の業務負担軽減を目的として見守り機器（見守りロボット）の導入を行いました。この見守りロボットの導入には多額の費用がかかりましたが、県からの補助金もありましたので設置を計画しました。今回導入をする見守りロボットは、利用者のベッド上での体動・離床・睡眠・呼吸・心拍等がモニターで確認できるので、利用者の動きに合わせたケアができるようになります。特に夜間は配置職員も少なくなり、1フロア30名の利用者に2名の職員で対応しておりますが、個室での生活のため、訪室しなければ利用者の状態が十分把握できない場合もあります。この事は職員の負担も大きくなり、また利用者の事故の確率もどうしても高くなってしまふ恐れがあります。この見守り機器の導入により、特に夜間帯における利用者の事故につながる動きや体調の変化が把握できることとなります。又、この見守り機器から得られる情報を無線LANシステム（Wi-Fi）の構築によりパソコン・iPodで可視化でき業務効率の向上につなげていきます。今後は、介護から得られる各種の記録・情報などが一元化できていない点を是正し、今回の計画と合わせてICT化をさらに進め介護業務の向上につなげる予定です。



言の葉研究会

勝手だよ寝てるが一番それが良い

でもここにきてわがまま言えない

パンが好きジャムパンとクリームも

青空にオレンジ色の残し柿

体も軽く良く眠れる

ここにきて良い事ばかり足軽く

内藤と美子

梅津知美

浅井歌壽代

秋澤さい子



利用者の作品を一部ご紹介致します！

美味しいものを たくさん食べました！

12月24日にクリスマスイヴ給食としてエビピラフ・ローストチキン、25日クリスマスにはにぎり寿司が提供されました。感染症を考慮し寿司職人によるにぎりパフォーマンスは中止となりましたが、大好きなお寿司に目を輝かせマグロやいくらを「うまいっ！」と召し上がり、おかわりも好評でした。お散歩の際には1階に飾った大きなツリーを



ご覧になりサンタさんと記念撮影、各ユニットで実施したクリスマスパーティーでは、サンタ帽子を被りながら美味しいケーキを召し上がり、楽しめました。また、大晦日にお寿司パーティーを行ったユニットもあり、賑やかな大晦日を迎えた様子でした。2021年は平安な世の中となり、また皆様の笑顔が多く見られますように…



一寸の光陰軽んずべからず ~名言・名句から学ぶ~

わずかな時間でも、無駄にはしてはならない達成しなくてはならない目標があるのに、無為に時を過ごすことを戒めること

わ〜く 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp

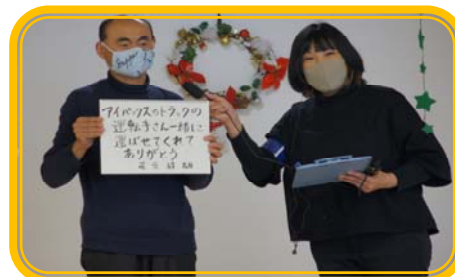


繁忙期到来

コロナの影響を大きく受けた上半期でしたが、後半戦になり忙しく仕事をさせていただきました。納期厳守と高品質の製品を心掛けています。



FM八ヶ岳インタビュー収録



外出や行事が思うようにできない中、インタビューイベントを開催しました！！

FM八ヶ岳の番組内で放送される「ありがとう」メッセージのコーナーで、その様子が放送されました。

わ〜く&共同で...

韮崎市を挙げての医療従事者と全ての人に「ありがとう」を伝える2ヶ月に渡るイベント【サンクスフェスタ・韮崎】が開催中！利用者の「ありがとう」がいっぱい詰まった作品が出来上がりました。地域交流センターニコリ 1階共有スペースに1月17日まで展示しています。お近くにお越しの際はぜひご覧ください。



共同生活事業所

共同生活事業所 (わ〜く穴山の里内)
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866

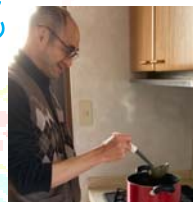


年末年始は...

コロナ禍のため帰省も自粛して、感染対策に留意しながら、編み物や工作、バイキングや料理など、散歩や掃除などで体力づくりも...自分達で出来ることに挑戦しました。



今年もみんなで楽しく過ごしています!!!



穴山の杜ショート

穴山の杜 短期入所生活介護事業所
〒407-0263 韮崎市穴山町 4410-3
TEL : 0551-25-0800



3年目を迎えて

介護士 石井 ひかる

人と関わる仕事に携わりたいと思い、穴山の杜短期に就いてから3年目を迎えました。今はようやく落ち着いて仕事をこなせるようになってきたと感じています。

この3年間聴覚障害を持つ私は、高校卒業以来慣れない環境の中で大学の実習も含め、利用者の皆様や職員とのコミュニケーションをとることが仕事以上に大変なことでした。介護の仕事をしていく中で、利用者の皆様が自宅での自立した日常生活を営むことや家庭の都合、介護疲れを軽減するなどそれぞれの事情で短期利用に来ていること、日常生活上必要な介助、機能訓練を行なう、身体状態の変化に気付く、毎日それらに見合った介護や対策方法を決めていくことの難しさを改めて知ることができました。その中で何より大事なことは、職員間での情報共有やコミュニケーションをとることであると気付かされました。聴覚障害を持っているため、皆より得られる情報量が少ないことでそれを理由にしてしまっていることがありましたが、それでは利用者の皆様に必要な支援や的確な対応をすることができないということも実感しました。

当たり前のことですが、これからも解らないことはもう一度聞き直すこと、疑問に思うことは自ら動き質問すること、自分の意見をしっかり持ち、視野を広げ、利用者の皆様が安心して生活できるよう、仕事に臨み頑張っていきたいと思います。



余暇活動

天气の良い日にベランダでチューリップの球根をプランターに植えました。花が咲く春まで待ち遠しいです。

広告と折り紙を利用して広葉樹の落ち葉を製作しました。赤やオレンジなどの色使いで紅葉が上手に表現されていました。



Happy X'mas



12月が近づくにつれ、ホールには手作りのサンタクロースやツリーが次々と飾られ、クリスマスムード一色になりました。イヴのクリスマス会では、職員からメッセージカードが届き、ケーキバイキングで紅茶を頂きました。翌25日は握り寿司を食べました。鮭やいくらに『美味しい!!』と終始にこやかな笑顔で、全員が一つ残さず完食でした。



おやつレク



今回は10月にチーズやチョコレートで変わったこ焼き、ハロウィンにクッキー、11月に南瓜と薩摩芋の館のおやきを作りました。それぞれ得意な分野で奮闘しました。次にはパン作りに挑戦しようと思っています。



迎春



新春の朝は厳しい寒さでしたが、青空が広がり初日の出も見られ、18名の利用者の皆様と迎えました。昼にはお節料理とお雑煮を食べ、三が日はお赤飯やちらし寿司とご馳走が続きました。恒例のかかるた取りや福笑い、書き初めを楽しみました。甘酒を飲みながら、絵馬に願い事を書き飾りました。



感謝録

(令和2年9月16日から令和2年12月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

大河原典子・柴田正雄・木島廣子・小野正貴・千野公洋・
穴山温泉能見荘・葺崎高校第32回卒業生有志・

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

永井萬喜子(太極拳)・田中康子(絵画)・生山澄江(書道)・
飯野祐子(書道)

成人の日

1月の第二月曜日は「成人の日」でした。

信和会でも2名の職員が成人を迎えました。

成人式には女性は振袖、男性はスーツや羽織袴などに身を包み、久しぶりに顔を合わせる旧友と懐かしい思い出話などに花を咲かせます。

今年は感染症の影響で式典自体が延期や中止になった自治体も多くありますがたとえ式典がなくとも、成人としての自覚と行動は常に持ち続けてほしいものです。

日本では古来より、成人になったことを示す儀式として、江戸時代まで続いた「元服」というものがありました。成人を迎える男子に対して、「服を改め」、「髪を結い」、「冠を付け」、「幼名を廃し烏帽子名を付ける」などの儀式が行われてきました。女子の場合、貴族の間では数年で8歳～12歳前後に「裳着(もぎ)」と呼ばれる儀式が行われました。また武家階級や一般階級でも、髪を結いあげて大人の髪型にして、衣服も大人のものに替える儀式が行われていました。

そしてこの元服の儀が行われたのが1月15日でしたので、ハッピーマンデー法が出来るまで1月15日に行われていましたが、改定以降1月の第2月曜日が成人の日となっています。

成人になった多くの若者のこれからの人生に幸多かれと祈ります。

コロナ禍の中、急速に広がった言葉！？

IT・ICT・IoTコロナの流行により今まで以上にこの言葉を耳にするのではないのでしょうか。この3つの違いは？

IT (例) パソコン・スマホ・ソフト・アプリ

ICT (例) メール・SNSの活用・通販・ネット検索

IOT (例) 自動運転・スマート家電

私達の生活にとっても身近になった情報ツールの事なのです。コロナ禍これらの情報伝達手段を有効活用する事で直接対面や接触せず仕事、学習や生活出来るため、感染拡大防止には役立つ手段です。IoTの発展により、物がインターネットにつながるようになり、音声や人の動き等に合わせて、機械が自動的に動く未来になるのではないのでしょうか。



節分は2月3日だけではない！

節分と聞くと、「豆まき」を思い浮かべる人が多いと思いますが、実は節分には“季節を分ける”という意味があり、二十四節気の立春、立夏、立秋、立冬それぞれの前日が「節分」なのです。

年間を二十四節気に当てはめて定期的な運用をしようとする、1年に少しずつ誤差が出てきて、ずれが生じるわけです。その調整と言いますか、ざっくり言うと閏年(うるうどし)と同じ感覚で、ずれた分の修正をした結果、2021年は2月3日が立春にあたるわけです。1985年～2020年まで節分は2月3日でしたが今年の節分は2月2日。36年ぶりに日付が変わります。

編集後記

新型コロナウイルス第3波の中迎えた年末年始、計画していた帰省や初詣等自粛した方も多いのではないでしょうか。収束の兆しが見えず1都3県への緊急事態宣言が発令されました。1年の厄は節分までと一般的に言われています。コロナも節分を機に良い方向に転じる事を願います。

信和会でも記録作成や分析統計に費やした時間を今後は、支援に使える様ICT補助金でケアパレットを導入します。介護・支援の質の向上の為、良いものを積極的に活用してまいります。

(M・O)

訪問録

(令和2年9月16日から令和2年12月15日)

☆教育実習 (敬称略)

◎山梨学院短期大学

三井朝実

◎帝京学園短期大学

☆施設見学 (敬称略)

◎FM八ヶ岳

清水好美



感染予防に留意し参加致しました

里 網倉さん(左)、杜 福島さん